

和泉なおみ HISTORY

1962年、仙台市に生まれる／宮城県第三女子高等学校卒／2013年初当選。現在3期目。党都議団幹事長／家族は夫(しんぶん「赤旗」記者)と2男／趣味は音楽、読書(宮部みゆきファン)／歌うことが大好き。好きな歌手はMISIA、ユミン、AI／社会保険労務士。

小学校6年生で両親が離婚、母親がわりに2人の妹のお世話を

小3でクラス委員になりリーダーシップを発揮。親の離婚後は2人の妹の保育園の送り迎え、ご飯の支度が日課に。父の仕事がうまくいかず電気やガスが止められるつらい経験も。



結婚・出産・日本共産党と出会い21歳で入党

結婚後に「いいお嫁さん」の気負いからダウンしたことも。出産を機に夫に誘われた日本共産党の演説会に我が子をおんぶして参加。小さな命を守りたいと決意し21歳で入党。その後夫の転勤を機に上京。



働く人の役に立ちたいと 難関の社会保険労務士試験に挑戦

仕事、家事、育児の合間に勉強を続け、持ち前の粘り強さをここで発揮。4回の挑戦で合格を掴み晴れて年金・雇用制度の専門家に。



運動の先頭に立ち、慈恵医大葛飾医療センターに放射線治療を再開

2012年の病院建て替えて廃止された、がん放射線治療。葛飾で唯一の放射線治療を守るべく、運動の先頭に立ち、署名を集め、慈恵医大や都とも交渉。粘り強い取り組みで、ついに2016年1月、慈恵医大は、がん放射線治療を再開。



2013年都議会議員に初当選、2020年から都議団幹事長で活躍

激動する東京都政の中で猪瀬・舛添・小池と3人の知事を相手に、都民のくらしと福祉をまもる立場からの論戦は都職員からも一目置かれています。



和泉なおみの思い

「くらし・福祉を都政の真ん中に」をスローガンに走り続けてきた12年。

過去最高を更新し続ける東京の豊かな財源をもっと都民のくらしに。都営地下鉄の小児運賃を50円、通学定期を半額に。シルバーパスを無料に。所得の低い75歳以上の方の医療費を無料に。都営住宅を年間5000戸増やしたり、子どもの国保料を無料にしたり、もっともっと都民のくらしを支える東京に。

これからも全力で走り続けます。



日本共産党都議会議員

2025.6.22 東京都議会議員選挙

和泉なおみ

都政を動かす

給食無償化、葛飾から全都へ

「高額な補聴器の費用の補助を」

「シルバーパス、安くしてほしい」

皆さんの一言をきっかけに

「ついに実現！」連発！

都議会議員でただ1人の社会保険労務士 専門家だから分かる、働く人の気持ち、中小企業の努力



葛飾民報

2025年春号外 葛飾民報社／葛飾区新宿5-22-21-208／☎3697-2101 日本共産党葛飾地区委員会は、和泉なおみ都議会議員の政策と活動を紹介します <https://www2.jcp-tokyo.net/izumi/>



さらに前進させます

「希望校に進学できた！でも交通費が高くて親に申し訳ない」

高校無償化の実現で思い切った第一希望の高校に行くことにした高校生が漏らした言葉です。この若者の声に応えたい...

子どもの交通費負担軽減・シルバーパス一律1000円・コミュニケーションパス事業支援で移動しやすい街にします

地域公共交通の危機打開・充実への提言があります

「給料は上がらないのに物価が上がって大変」

都が行う中小企業の賃上げ支援は約5700社が応募したのに、支給されたのはわずか159社。しかも支給まで早くても1年もかかることが明らかになっています。

20万人の賃上げを後押しする

「中小企業の賃上げ応援助成金」を実施。

真金条項のある公契約条例の制定を提案し、地域経済を元気にします

「家賃が高すぎて子育て大変」

「ソソガルでも都営に入りたい」

都内各地で進む再開発が地価の高騰を招き、賃貸の家賃にも影響が出ています。このままでは東京は、学生や中高年シニア女性、子育て世帯、年金生活者が住めない街になってしまから...

全世代型の家賃補助・都営住宅の新規増設・公社住宅の借り上げで住まいは人権を後押しします

25年度予算編成に対する提案要求をしています

「ちょっと聞いてほしい話がある...」

そんな声を聞き逃さずに向き合います。

和泉なおみは、都政が動く

学校給食・補聴器・シルバーパス

「耳が聞こえないのは悲しい」「聞こえているふりをする」

補聴器購入費助成拡大

「給食無償化良かった！」「給食無償化良かった！」

都議会でくり返し提案

国会質問で道ひらく

ついに都内100%実施

「義務教育は無償」共産党都議団は、都民の運動と力を合わせて、繰り返し学校給食の無償化を求めてきました。

小池知事は「国がやるべきもの」と、後ろ向きでしたが、葛飾区で無償化が実現。大きな世論となり、ついに全都の公立小中学校で無償化が始まりました。

高齢者の2人に1人が難聴と推計されます。共産党都議団はアンケート調査を行い、19年11月には「高齢期のきこえの支援を考える」シンポジウムを開催しました。のきこえの支援を考える」シンポジウムを開催しました。「補聴器が高くて買えない」という問題について都議会で質問。「高齢者にとって難聴は身近な問題」「早期からの補聴器使用は有効」と答弁を引き出しました。葛飾区でも2025年度からこの制度を使い、住民税非課税者は14万4900円(課税者は半額)の補助に。

高齢者2人に1人が難聴と推計されます。共産党都議団はアンケート調査を行い、19年11月には「高齢期のきこえの支援を考える」シンポジウムを開催し、約170人の方にご参加いただきました。慶應義塾大学大耳鼻咽喉科の小川都教授からお話しを伺い、東京都医師会会長、日本補聴器工業会副理事長、東京都中途失聴・難聴者協会理事長からご意見を伺い、他の会派からも、複数の都議員が参加。「難聴対策の重要性が理解できた」「党派を越えたとりくみとして、補聴器への公的補助の実現へ取り組みたい」と感想が寄せられました。

「もっと多くの高齢者が使えるように！」

「聞こえない」

「聞こえているふりをする」

「高額な補聴器の費用の補助を」

「シルバーパス、安くしてほしい」

皆さんの一言をきっかけに

「ついに実現！」連発！

都議会議員でただ1人の社会保険労務士 専門家だから分かる、働く人の気持ち、中小企業の努力

「2万円は高すぎる、もっと安く...」

「シルバーパス 1万2000円に値下げ」

自公などの賛成により、2000年から全面有料化されたシルバーパス。共産党都議団は無料化や負担軽減、都境の利用など繰り返し条例提案をしてきました。

昨年12月議会では共産党提出の一律1000円などを盛り込んだ条例案に5会派39人が賛成。こうした中、都はついに1万2000円に値下げすることになりました。

給食無償化に向けた共産党都議団のとりくみ

17年9月	党都議団が、学校給食費1000円助成条例を提案
18年12月	議員より参院議員が国会で「無償化は禁止していない」の大臣答弁を引き出す
22年12月	党都議団が「半額助成条例」を提案
23年4月	葛飾区が無償化、都内に広がる
23年12月	全額無償化条例を共同提案
24年1月	都が2分の1補助を行うことを発表
24年4月	2区はすべて無償化(多摩地域は半分が無償化)
24年6月	党都議団は新たな「多摩格差」にならないよう財政支援を提案
24年9月	補正予算で町村総合交付金を増額し、給食費無償化を後押し

他党派とも力を合わせて、都政を前に進めさせていく

都議団第一党の幹事長として

水と緑が豊かなかつしかへ

さらにスポーツ環境の充実も

日本共産党 和泉なおみ

葛飾が大先輩

2 桜並木の大場川、武蔵野の道を守る

(さわやかレポート76号、78号、97号)



和泉都議の
現地レポート

延宝3年(1675年)開削の「大場川」。地元から道路のアスファルトの強化が求められていました。和泉都議の文書質問で「大場川一体は貴重なオープンスペースであり可能な限り水生生物の環境を保全し、人々が水辺の自然に親しめる河川として整備する」と都から答弁を引き出しました。住民の声を聞き、堤防強化と自然環境の両立をはかるよう求めています。



4 橋の長寿命化とバリアフリーを一体に「堀切橋にもエレベーターを」の聲にこたえて質問

(さわやかレポート67号、82号)



和泉都議の
現地レポート



1967年完成の堀切橋。ベビーカーや車椅子での利用が困難でスロープもかなり痛んでいます。そのため青砥橋に続き老朽化問題を取り上げました。堀切橋の長寿命化工事に合わせて青砥橋の計画のようにエレベーターを設置すれば、バリアフリー化計画も一体で進めることができます。都は「効果的効率的な整備を検討する」と前向きな回答をしました。



1 加用水、水質改善に導く

(さわやかレポート76号、78号)



和泉都議の
現地レポート

江戸時代に始まる歴史的用水路「加用水」。農業用水路として使われなくなったために、雑草も生い茂り、綺麗な水流とは言えない環境に住民から改善を求める声が上がっていました。和泉都議は質問を続け、都に問題を認識させて大場川から水元公園中央水路を通り加用水まで一体で排水設備改修を行わせるなど、着実に進んでいます。



3 若者ストリートカルチャー応援、スケボー広場設置に動く

(さわやかレポート88号、90号、97号)



和泉都議の
現地レポート



日本人選手の活躍がめざましいスケボー競技。区内には練習場所が1カ所しかなく不便でした。和泉都議は練習する場所がなく困っている若者の声を直接聞き、都内のスケボー広場も調査しました。文書質問で区内の適地として江戸川堤防そばの水元公園多目的広場を見つけ出し、区も2028年完成に向け整備を進めています。

和泉なおみのさわやかレポートは都政を届ける情報満載で毎月発行

皆さんに都政を分かりやすく届けたい、そんな想いで毎月発行を続けたさわやかレポートは今年1月で100号を迎えることができました。私のホームページでご覧いただけます。私のエッセーもごさいますのでぜひお読み下さい。

こちらから
読めます



和泉なおみがこれまで取り組んできたたくさんの地元課題の一部を紹介します

- ★ 建築協会と懇談し、物価スライドが実現(77号、98号)
- A よつぎ療育園、勉強会に参加し当事者目線で質問(53号、100号)
- B 奥戸の森永乳業工場跡地は地元住民のための活用を(73号)
- C 銭湯文化の振興、くつろぎ入浴証が相互利用可能に(77号、79号)
- D 水元公園の菖蒲田、生育環境改善に予算がつく(80号、85号、88号)
- E 水元公園の噴水が復活
- F 京成本線荒川橋梁かさ上げ工事着工
- G 青砥橋のバリアフリー化進む
- H 京成立石駅新駅にホームドア決定

現地レポート
再生リスト



平和への想い、日本から世界へ

広島出身の母が原爆の話をしたことはありませんでした。大人になり広島を訪れ、原爆投下直後の様子を見たとき、話さないのではなく、話せなかったのだと思いました。また、父は仙台で空襲を経験しました。七夕祭りの前夜祭の花火は、「爆弾が落ちてくる音を思い出す」といって、一度も連れて行ってはくれませんでした。

私は、まだ首がすわらないわが子を抱いて、「この子が、戦争で銃を向けられたり、向けたりするような国には絶対にしたくない」との思いか

ら、命がけて戦争に反対した日本共産党に入党しました。

今世界では危険な軍事対決がエスカレートしています。しかし一方では、国連で核兵器禁止条約が制定され、日本被団協がノーベル平和賞を受賞し、東アジアでは対話による平和の枠組みが広がるなど世界は動いています。憲法9条をもつ日本こそ、核廃絶と世界平和のための役割発揮を。戦後80年、被爆80年、東京大空襲80年の今年、平和に向け東京から大きな一歩を。



三小田准一 中村しんご 木村ひでこ 片岡ちとせ 中江秀夫
日本共産党葛飾区議会議員 前区議会議員

私たちも和泉都議と力を合わせ、
くらし優先、住みやすい街づくりに全力をあげます。